

2014年3月期 第3四半期 決算報告

2014年2月7日
株式会社 **クレスコ**
経営企画室

1.1. 決算のトピックス

連結

▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⌘ 売上高 … 157億27百万円 (前年同期比 14.7%増)
- ⌘ 営業利益 … 9億69百万円 (前年同期比 15.3%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	前年同期を6億64百万円上回り、59億51百万円(前年同期比12.6%増)
	公共・サービス分野	前年同期を40百万円上回り、34億55百万円(前年同期比1.2%増)
	流通・その他の分野	前年同期を11億28百万円上回り、37億54百万円(前年同期比43.0%増)
組込型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	前年同期を41百万円上回り、7億93百万円(前年同期比5.5%増)
	カーエレクトロニクス分野	前年同期を60百万円下回り、5億82百万円(前年同期比9.4%減)
	情報家電等・その他の分野	前年同期を1億84百万円上回り、11億35百万円(前年同期比19.4%増)
商品・製品販売		前年同期を上回り、56百万円(前年同期比36.1%増)

▶ 連結財政状態に関する主な事項

- ⌘ 総資産 … 142億73百万円 (前期末比22百万円増)
- ⌘ 自己資本比率 … 63.5% (前年度末 59.6%)

1.2. 振り返り

単体

全般傾向

- ◆ ビジネス向けソフトウェア開発
 - ・全般的に受注が改善傾向、特に金融関連が伸長
 - ・スマートフォン、タブレットPC関連のソリューション展開
 - ・お客様との共同開発の推進
- ◆ 組込型ソフトウェア開発
 - ・国内メーカー向けのカーエレクトロニクス関連の案件が減少
 - ・近距離無線通信ソリューションの推進
 - ・新規顧客の開拓、技術者のスキルシフトに注力
- ◆ クラウドサービス関連
 - ⊕ 『インテリジェントフォルダ』
OEM供給モデルの拡販、プライベートセミナー開催
 - ⊕ 『クレアージュ』
サービスラインナップの充実と販売プロモーション



課題

人材の獲得と協力会社との連携強化

クラウド関連サービスの拡販

新規顧客の開拓（特に組込型ソフトウェア）

1. 決算のポイント

1.3. 振り返り①

子会社

	クレスコ・イー・ソリューション	◆ ERP (SAP/R3) の導入コンサルティングが堅調 ◆ 既存顧客への営業活動、一括案件の発掘に注力 ◆ 各種ソリューションの拡販や人材採用 (特に経験者) が課題
	ワイヤレステクノロジー	◆ 受注案件が小規模化、新規案件も改善傾向にあるものの、受注不足 ◆ 要素技術 (Bluetooth) の受託開発案件が減少、リカバリーできず ◆ 販売チャネルの発掘や外部パートナーと連携した、提案材料の確保が課題
	クレスコ・コミュニケーションズ	◆ 新事業の立ち上げ未着手 ◆ スマートデバイスを活用したSI提案を展開するも、受注減 ◆ 2014年1月末付にて、クレスコグループ傘下から離脱 (全株式譲渡)
	クレスコ・アイディー	◆ 主力のセキュリティロッカーの販売は、伸び悩み ◆ RFID関連の応用製品やICタグの販売は堅調 ◆ 飲食店向け「ハンディライター」の販売が貢献、応用製品の開発が課題
	アイオス	◆ クレスコグループ内の連携により、営業機会を拡大を図るも受注不足 ◆ 待機要員の解消やプロジェクトの採算性向上に注力し、利益を確保 ◆ 営業力の強化と協力会社を含む人材の確保が課題

1. 決算のポイント

1.3. 振り返り②

子会社

	クレスコ九州	❖ 地場企業の需要は掘り起こしを行うも案件数が少なく、受注単価も減少傾向 ❖ クレスコグループとの営業連携の他、製品販売やニアショア開発を実現 ❖ 人材採用(特に経験者)、協力会社の開拓が課題
	クレスコ北陸	❖ 独自のITソリューションを武器に地場企業の深耕に注力し、受注拡大 ❖ クレスコグループでの連携を強化し、ニアショア開発の体制を整備 ❖ クレスコ・アイディーと協業開発した「ハンディライター」の拡販が課題
	科礼斯軟件(上海)	❖ 中国進出企業の支援ビジネスを事業の柱に、営業活動を実施 ❖ 上海地場のIT関連企業との開発体制拡充に注力 ❖ オフショア案件も含めた案件の獲得が課題
	シースリー	❖ 鉄道、ダム、電力関連の制御系システムに強み ❖ 情報系の開発案件が回復傾向にあり、要員の稼働率が安定 ❖ 交通関連システム、インフラ関連システムの更なる拡充が課題
	クリエイティブジャパン	❖ 日立グループ様関連の案件を中心に稼働は安定 ❖ ネットワーク関連の技術力を武器に、クレスコグループの基盤ビジネスに寄与 ❖ 労働者派遣型の受注形態見直し(請負型への移行)と利益率向上が課題

【注】 2012年12月14日に「株式会社シースリー」を子会社化いたしました。

【注】 2013年4月1日に「株式会社クリエイティブジャパン」を子会社化いたしました。

2. 財務経営成績 等

2.1. 損益計算書 [要約]

[連結](#)

[単位：百万円未満切捨]

	2013年3月期 第3四半期 ＜実績＞	2014年3月期 第3四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2014年3月期 通期予想 ＜2013/5/7公表＞
売上高	13,712	15,727	114.7%	22,000
売上総利益	2,194 (16.0%)	2,616 (16.6%)	119.2%	— (—)
営業利益	840 (6.1%)	969 (6.2%)	115.3%	1,410 (6.4%)
経常利益	944 (6.9%)	1,201 (7.6%)	127.2%	1,530 (7.0%)
当期純利益	525 (3.8%)	719 (4.6%)	137.0%	860 (3.9%)
EPS 円/株	48.64	66.68	—	79.90

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

2. 財務経営成績 等

| 2.2. セグメント売上高の比較 連結

[単位：百万円未満切捨]

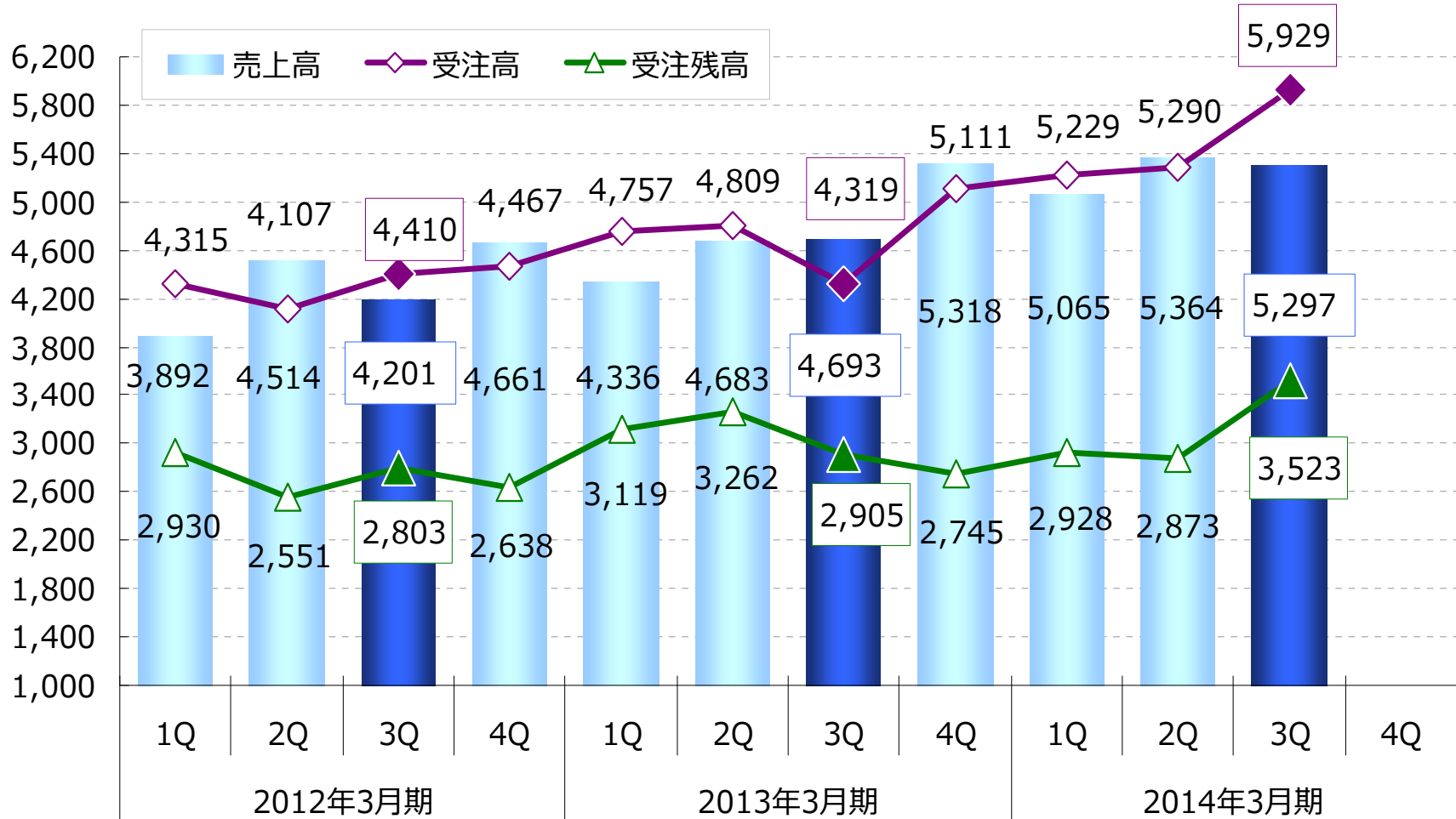
セグメント		2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	増減	増減率
大区分	小区分				
ソフトウェア	金融関連	5,286	5,951	664	12.6%
	公共・サービス	3,414	3,455	40	1.2%
	流通・その他	2,625	3,754	1,128	43.0%
	計	11,327	13,160	1,833	16.2%
組込型 ソフトウェア	通信システム	751	793	41	5.5%
	カーエレクトロニクス	642	582	▲ 60	▲ 9.4%
	その他	950	1,135	184	19.4%
	計	2,344	2,510	166	7.1%
商品・製品販売		41	56	14	36.1%
全計		13,712	15,727	2,014	14.7%

2. 財務経営成績 等

2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移

連結

[単位：百万円未満切捨]



2.4. 損益計算書 [要約] 単体

[単位：百万円未満切捨]

	2013年3月期 第3四半期 ＜実績＞	2014年3月期 第3四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2014年3月期 通期予想 ＜2013/5/7公表＞
売上高	9,111	9,682	106.3%	13,000
売上総利益	1,447 (15.9%)	1,606 (16.6%)	111.0%	－ (－)
営業利益	648 (7.1%)	741 (7.7%)	114.4%	－ (－)
経常利益	749 (8.2%)	961 (9.9%)	128.3%	1,200 (9.2%)
当期純利益	419 (4.6%)	628 (6.5%)	149.9%	720 (5.5%)

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

2. 財務経営成績 等

2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位：百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金： 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金： 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金： 50]	
	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期
売上高	1,050	1,085	66	40	92	45
売上総利益	233	293	1	▲ 7	23	2
営業利益	98	111	▲ 14	▲ 22	▲ 10	▲ 20
経常利益	100	118	▲ 14	▲ 22	▲ 10	▲ 20
当期純利益	62	74	▲ 9	▲ 14	4	▲ 24
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	90.0%	90.0%

【注】 2014年1月31日に「株式会社クレスコ・コミュニケーションズ」の株式譲渡を行い、クレスコグループから外れました。

2. 財務経営成績 等

2.5. 損益計算書 [要約]②

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・アイディー [資本金： 100]		 アイオス [資本金： 313]		 クレスコ九州 [資本金： 50]	
	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期
売上高	28	79	2,803	2,639	130	138
売上総利益	7	27	364	372	15	16
営業利益	▲ 15	2	123	136	▲ 2	1
経常利益	▲ 15	2	130	146	▲ 2	1
当期純利益	▲ 17	2	78	78	▲ 2	0
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2. 財務経営成績 等

2.5. 損益計算書 [要約]③

子会社

[単位：百万円未満切捨]

	 クレスコ北陸 [資本金： 50]		 科礼斯軟件（上海） [資本金： 70]		 シースリー [資本金： 20]	
	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期
売上高	416	422	0	24	69	671
売上総利益	85	83	0	▲ 1	16	95
営業利益	28	30	▲ 8	▲ 18	6	28
経常利益	30	30	▲ 15	▲ 25	7	31
当期純利益	▲ 3	17	▲ 15	▲ 25	1	21
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	70.0%	70.0%

【注】 2012年12月14日に「シースリー」を子会社化いたしました。

2.5. 損益計算書 [要約]④

子会社

[単位：百万円未満切捨]

	 クリエイティブジャパン [資本金： 30]	
	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第3四半期
売上高	-	1,046
売上総利益	-	149
営業利益	-	46
経常利益	-	46
当期純利益	-	34
持分比率	-	100.0%

【注】 2013年4月1日に「クリエイティブジャパン」を子会社化いたしました。

| 3.1. 基本方針

次世代クレスコのグループ展開 推進

私たちは
「メインITソリューション・パートナーを目指す」こと、
「ワンストップ・ソリューションを提供する」ことの2つをビジョンとして掲げ、
グループ企業と一丸となり、将来に向けて精進してまいります。

第26期は、次世代クレスコを全グループ会社に展開し、
クレスコ本体は、これをリードし、推進してまいります。

また、グループのガバナンス強化とコンプライアンス経営の徹底を実施し、
主体的にその社会的責任を果たしてまいります。

| 3.2. 重点施策

▶ 「技術と品質のクレスコ」の推進

原点に回帰し、企業グループ全体の「品質マネジメント力」の底上げを実現

▶ サービス事業のビジネスモデル強化

オリジナル製品(『インテリジェントフォルダ』『クレアージュ』等)の**拡販戦略**実行

▶ グループ連携強化による収益性の改善と企業価値の増大

協業による新規**ソリューションの開発**、**クロス営業**の強化、高度スキル**人材の育成**

▶ ニアショア、オフショア化の推進

地方分散開発体制強化と**海外開発体制**の整備

▶ 新規事業の開発

技術研究所を中心とした新たな**ビジネスモデルの創出**

| 3.3. 今後の見通し、株主還元方針など①

1 経営環境

当第3四半期連結累計期間(2013年4月1日～2013年12月31日)の経営環境は、円安や株高の基調が定着し、回復基調となりました。
このような経済環境下において、情報サービス産業は、モバイル端末の普及を背景としたクラウド関連事業を、新たな成長ドライバーとしたビジネスを展開する他、ソリューション提案力、コンサルティング力の強化に注力しております。
国内企業のIT投資は、現政権の経済政策の影響もあり、リーマンショック前の水準に回復しつつあります。

2 今後の見通し

2014年の国内企業のIT投資は、クラウドやモバイル端末(スマートフォンやタブレットPC等)を利活用したシステムへの移行、ITシステム基盤の統合・再構築、ビジネスプロセスの可視化・最適化、ビッグデータの分析・活用、仮想化技術の導入、ソーシャル・テクノロジーのビジネス活用、オープンソース・ソフトウェアの活用など、ソーシャル、モバイル、アナリティクス、クラウドといった分野の成長が見込まれます。
当社企業グループの足許の営業状況を鑑みしても、ITを含む設備投資は、新年度以降も成長、拡大するものと予測しております

| 3.3. 今後の見通し、株主還元方針など②

3 今後の事業展開

2014年度のIT投資分野は、顧客情報・営業支援、生産・在庫管理、販売管理、経営情報・管理会計といった、本業に直結する基幹系システムや情報系システムの需要が増加すると予測しております。

当社企業グループの主な事業領域は、システム・インテグレーションサービスやITコンサルティングなどのプロジェクトベースとなっておりますが、ソーシャル、モバイル、アナリティクス、クラウドといった開発トレンドをしっかりと取り込み、多様化するマーケットニーズへスピーディに対応してまいります。

また、当社企業グループ各社が長年培ってまいりました技術と経験を活かして顧客の環境変化をいち早く捉え、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、他社とのアライアンスビジネスも含めた事業を展開してまいります。

4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。

なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。
投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。
予めご了承ください。